

川南町におけるフッ化物洗口の取り組みについて

川南町役場 渡邊寿美 永田佳代 木村仁美

1、はじめに

う蝕は殆どの方が経験する社会的疾患で、しかもう蝕になりやすい時期は、歯の萌出後の1-2年といわれている。そのため、永久歯のう蝕予防に関しては、就学前から中学校卒業の時期が最も効果的である。また、1度できてしまったう蝕は決して元の健康な歯には戻すことはできないので発生しやすい時期にしっかり予防しておくことが大切である。

う蝕の予防方法は3つあり、甘いものを控えること、食後の歯みがき、フッ化物の応用である。

フッ化物の応用として、フッ化物洗口法がある。フッ化物洗口は簡単であること、安全性が確立されていること、確実な予防効果が期待できること、経済性に優れていることから、保育所、幼稚園、学校などの集団施設での応用に適している。

今回、川南町において、保育所11施設、幼稚園2施設、小学校5校を対象に一貫したフッ化物洗口の導入を試みたのでその経過をここに報告する。

2、経過

平成19年度川南町むし歯予防フッ化物洗口事業経過

		小学校	保育所 幼稚園	
1	17 水	校長会「平成19年度川南町むし歯予防フッ化物洗口事業」説明		
	26 金	多賀小学校PTA役員説明		
	29 月	東小学校PTA役員説明会		
2	6 火	川南小学校PTA説明会		
	7 水	平成19年度川南町むし歯予防フッ化物洗口事業説明会(小学校、保育所、幼稚園関係者)		
	9 金	山本小学校PTA説明会		
		校長会「フッ化物洗口について」		
	14 水	通山小学校PTA説明会		
		宮教組より川南町職労へ反対協力の申し入れ		
3	27 火	教育委員、教育委員会職員説明会		
	28 水	通山小学校職員との協議		
	1	木	川南小学校保護者説明会(PTA総会)	
		金	通山小学校保護者説明会(PTA総会)	
	2	金	東小学校保護者説明会(PTA総会)	
		土	山本小学校保護者説明会(PTA総会)	
		宮教組より健康福祉課へ事業中止の申し入れ		
	6 火		保育所・幼稚園むし歯予防事業説明会	
	7 水		平成幼稚園保護者説明会(父母の会総会)	
	8 木	東小学校職員との協議		
	川南小学校職員との協議			
10 土		川南幼稚園保護者説明会(父母の会総会)		
13 火	山本小学校職員との協議			
15 木	多賀小学校職員との協議			
24 土		わかば保育所保護者説明会(父母の会総会)		
4	5 木		児童館保護者説明会(父母の会総会)	
	7 土		保育所、幼稚園11施設保護者説明会(父母の会総会)	
	15 日	多賀小学校保護者説明会(PTA総会)		
27 金	教育委員、教育委員会職員説明会			
	通山小学校保護者説明会			
5 27 日		「子どもの健康を考える会」(反対派)の講演会		
6	3 日	健康づくり講演会「効果的なむし歯予防方法を考える」福岡歯科大学名誉教授 境 脩先生		
		シンポジウム「フッ化物洗口によるむし歯予防」 県健康増進課、県歯科医師会、新富幼稚園、高鍋保健所		
7	12 木	歯科保健推進協議会設置		
	23 月	校長会「9月第3週から開始で決定」		
	30 月	保健主事、養護教諭部会		
8	1 水		保育所11施設で開始	
	29 水	山本小学校職員フッ化物洗口デモスト		
9	3 月	多賀小学校職員フッ化物洗口デモスト		
	5 水	川南小学校職員フッ化物洗口デモスト		
			幼稚園2施設で開始	
	14 金	東小学校職員フッ化物洗口デモスト		
	19 水	小学校4校で開始		
21 金	小学校1校で開始			

保育所、幼稚園

私立幼稚園については、フッ化物洗口の事を知っている園もあり、職員の理解は早かった。

町立保育所の職員、保護者へは、職員の説明会、父母の会総会での説明会により、理解してもらった。

小学校

最初は、教育委員会に相談した上で、校長会で提案した。しかし、校長会では、「フッ化物洗口」というものを詳しく知らないこともあり、特に質問も出さなかった。この件をそれぞれの小学校に持ち帰って協議したあとの反響が大きかった。それから、各小学校、川南町教育委員会、教育事務所、役場職員組合からの問い合わせが続き、教職員組合からの事業中止の申し入れもあった。また、保育所、幼稚園、小学校へ反対ピラが配付され、町内各戸のポストにも反対ピラが入るようになった。新聞社の取材でも、「安全危惧 導入進まず」という見出しで川南町が進めるフッ化物洗口について問われた。宮崎県内の小学校でフッ化物洗口の導入が進まない理由がよくわかった。とにかく、教育委員会での説明会、小学校職員への説明会、保護者会での説明会を繰り返した。

何でも初めての事を実施しようとする、不安

が生じるものである。特に、洗口剤を口の中に入るという予防法なので不安に思いうる方もいる。不安に思う方たちの殆どは、安全性を心配していた。専門的な事の説明は支援していただいていた歯科医師会の先生方へお願いし、行政としては、積極的に情報提供し、現場から上がってくる質問に対して、ひとつひとつ丁寧に答える事を繰り返した。

また、フッ化物洗口の効果や安全性などの他に、抜歯の第1位の要因がう蝕であること、口腔機能の低下は、QOLのみならずADLにも影響がでること、その事は虚弱老人を生み、ひいては要介護へ移行していくこと、また、国民健康保険(40-74歳)の医療費のワー

スト1がう蝕であることも伝えた。

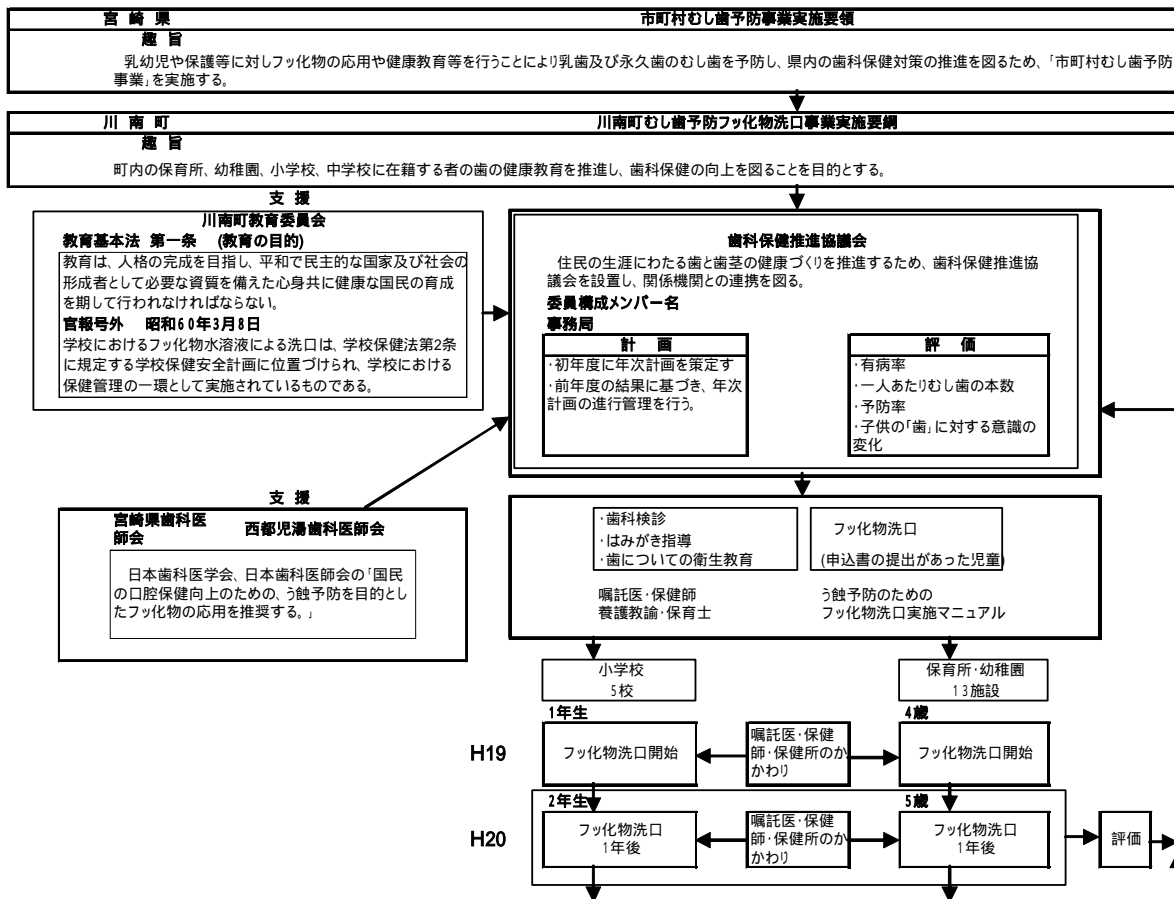
平成19年6月3日の健康づくり講演会、シンポジウムの開催は、関係者と保護者だけでなく、若い世代から高齢者までの町民に周知してもらい、追い風となった。また、壁にぶつかった時は、県健康増進課、宮崎県歯科医師会、西都児湯歯科医師会、高鍋保健所の方たちに指導、助言をいただきながら、乗り切っていった。

3、考察、まとめ

8 - 9か月かかって、保育所、幼稚園、小学校のフッ化物洗口をスタートさせることができた。心配していた洗口実施率は、保育所、幼稚園で78.9%(281/356人)、小学校で83.6%(924/1,105人)と高かった。小学校6年生の保護者うち、92.3%の保護者が、中学生になっても継続して実施して欲しいということもあり、H20年度からは、中学校でも実施することとなった。

フッ化物洗口を導入するためには、どれだけ住民の事を思っているかという「みんなの健康を願う気持ち」、正しい知識をどれだけ持っているかという「正しい科学」、それと「勇気」が必要だと言われている。いろんな形で逆風が吹くが、担当者があきらめず、それ以上進むことはない事、あきらめなければ失敗ではない事、そして誠意を持って伝えれば、必ず相手に伝わる事を学んだ。

また、関係者の方々に、次のフローを示すことにより、むし歯予防事業を、町としてはどのように展開していくのかを理解していただけたので紹介する。



4、おわりに

フッ化物洗口の導入を進めるにあたり、保育所、幼稚園、小学校の先生方と顔を合わせ、話し合う機会が増えた。その事で、園児や児童の生活習慣の相談を受けたり、たばこやアルコール、性教育等の衛生教育の依頼が増えた。気づいたら、今まで私達が入り込む機会の少なかった学童期への介入の入口が自然と出来上がっていた。これは、予想もしていなかった結果で、これまでなんとなく敷居の高かった幼稚園や小学校も、今では気楽に訪問することができる。

今年度から中学校2校でもフッ化物洗口を開始することとなった。新潟県のように、20 - 30年後、次の世代の子供達がフッ化物洗口を実施している頃には、川南町の12歳児の平均むし歯本数が1.0を切り、またさらに50年後には、8020を実現した高齢者が増え、介護を必要とする高齢者が減り、今よりずっと活気のある川南町があることでしょう。